



— 大館市のごみ処理の現状とこれから —

リポーター ^{しば た じゅん} 柴田 純さん (清水町)

最近ニュースで取り上げられている東京都のごみ埋め立て地の収用問題、数年前から騒がれているダイオキシンによる環境汚染、不法投棄など、ごみ対策は『ごみ戦争』とまで言われています。そこで、大館市のごみ処理の現状やその対策はどうなっているのかを調べたいと思い、市役所生活環境課、大館広域第一環境センター（ごみ焼却場）、同粗大ごみ処理場・埋立最終処分場を訪ねました。

収集されるごみの量と処理経費

市内で収集されるごみの量は、事業系のもも含めて平成十一年度の一年間で二万六千八百四十六トン（一日あたり約七十四トン）とばく大な量となっています。その一日あたりの内訳は、燃やせるごみが四十九トン、燃やせないごみが十五トン、粗大ごみが一トン、資源ごみが七トン、塩ビごみが二

大館市のごみ収集(処理)量の推移

種別	年度	数量 (単位:トン)	市民一人一日 あたりの数量 (単位:g)
燃やせるごみ	7	17,794	713
	8	18,026	724
	9	17,306	695
	10	17,504	705
	11	17,906	721
燃やせないごみ	7	6,517	261
	8	6,711	270
	9	6,256	251
	10	5,363	216
	11	5,890	238
塩ビごみ	7	※塩ビごみの分別収集は平成9年7月から実施	
	8		
	9	313	13
	10	574	23
	11	617	25
資源ごみ	7	2,184	88
	8	2,303	92
	9	2,473	99
	10	2,434	98
	11	2,433	98
計	7	26,495	1,062
	8	27,040	1,086
	9	26,348	1,058
	10	25,875	1,042
	11	26,846	1,082

従来のごみ減量対策

市では、資源ごみ回収奨励金制度、家庭で生ごみを処理できる生ごみ処理器（コンポスト）の無償貸与（昨年度までに三千六百二十三個が各家庭に設置）、家庭から出る資源ごみの分別収集によりごみの減量化・資源化を進めてきました。このため、ごみの焼却・埋め立て処理量はここ数年横ばいの状態を保っていますが、資源ごみとしてリサイクルされるのは全体の一〇程度です。

ごみの収集は、燃やせるごみが週二回、燃やせないごみと塩ビごみが月二回、資源ごみが種類により月一回（計月四回）、粗大ごみが年四回となっています。燃やせるごみ・燃やせないごみ・塩ビごみについては、一日では市内全部のごみを収集できないため、長木川を境に南と北で収集日を分けて実施されています。

ごみ収集の現状

収集にあたって困ることは、分別されていないごみやガス抜きされていないスプレー缶・カセットガスボンベが多いことです。

ごみが分別されて出されないのは、面倒であるというモラルの問題と分別するごみの種類が周知徹底されていないことが原因だと思います。ごみの種類については、例えば納豆のカラは塩ビごみのような気がしますが燃やせるごみです。また、資源ごみになる空きビンは一升ビン・ビールビン・サイダービンだけで、その他のビンは燃やせないごみとなります。市では、よりわかりやすい内容の冊子を来年三月に全世帯に配布する予定で、さらにごみ袋にごみの種類の絵を描くことも検討しています。

ガス抜きをしていないスプレー